

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201627		
法人名	株式会社ケア・グループ		
事業所名	グループホーム花丘		
所在地	高崎市南大類町1307-6		
自己評価作成日	平成30年10月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念を常に頭に置き、職員全員で積極的に意見を出し話し合い、お互いにカバーし、利用者様一人ひとりに合った安全安心、穏やかな生活ができる様、支援させて頂いています。又、食事は専門スタッフを配置、畑で取れた野菜、果物を召し上がっていただき、利用者様に季節を感じて頂けるように工夫して作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にあり、中学校の登校順路となっていて、朝夕の登下校の様子が居室の窓から見え、手を振る時もある。食事を専門に担当する職員がおり、全て手作りの食事を提供し、漬物も自家製の糠漬け・おやつには必ず手作りヨーグルトが提供され、利用者のたのしみと完食につながっている。また、菜園があり、野菜づくりの他、みかんや柿、イチジク、きんかんなどの実が実り、毎日の食卓やおやつに使われている。日々のケアにおいては、「認知症介護」で気をつける事・やってはいけない事等についてみんなで考え項目ごとに文章化し、毎朝申し送り時に唱和している。さらに、月に1度の職員会議にて、項目ごとに来たこと、できなかったことについて話し合い、振り返りにつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、引き継ぎの際、その日の明け勤務と日勤者、キッチン早番とで当施設の理念を唱和し確認しています。又、年に一度、理念について考えてもらうため、簡単なレポート提出を行っている。	申し送りの後に、「理念」と、皆で考えた「認知症の介護でやってはいけないこと5項目」「奨励4項目」を唱和している。唱和することで、日々の支援を意識して取り組むことにつながっている。また、管理者は、職員の日々のケアを確認しながら、注意やアドバイスをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校の職場体験学習(ヤルベンチャー)等で、地域交流をしている。	町内会に入り、回覧板が届くようになっている。犬やうさぎを飼っている近隣の人と会話がはずんだり、事業所の花火大会に近所の子供たちを招待したりしている。また、家庭菜園の野菜や木の実をおすそ分けしたり、いただいたりの日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、民生委員の方に出席して頂き情報交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で提案して頂いた意見を職員会議で報告し、職員全体で共有し、支援に繋げている。	開催の日程を数ヶ月前に家族に知らせ、日曜日を選択することで、毎回3家族の出席がある。あんしんセンターや市の職員も、参加している。会議では、将棋のボランティアの毎週の訪問により利用者の笑顔が増えた事例などの報告が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で、市、職員、包括センター(高齢者、あんしんセンター こまい)の方と情報交換を行っている。	介護申請等の手続きや入居者情報等のことで、市に出向いている。利用者、家族から身体障害者手帳の交付希望があった時には、市に問い合わせる手続きをすすめた事例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修(2ヶ月ごと)身体的拘束適正化会議を設け、なぜ身体拘束をしてはいけないかを、資料等から学んでいる。	身体拘束禁止であり、スピーチロックも含めて、職員会議で話し合う機会を設けている。スピーチロックに気づいた時点で、管理者がその場でアドバイスしている。日々のケアの中では、見守りを重視していて、ホールには必ず職員がいるようにしており、利用者の変化などは会議や申し送り時に情報共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的拘束適正化会議において虐待防止についても、同時に資料等から学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がいるので、その実際を業務の中で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時に説明し、疑問点等については、その都度対処し、内容の変更等は速やかに書面やご家族の来所時に口頭で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や、運営推進会議などで提案された事、要望などは、全家族へ文書で発送している。	利用者や家族の希望に応えようと、利用者の配偶者が危篤になったときに、利用者をタクシーにのせて病院に送るなどしており、今後も家族の要望に応えるように検討していきたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で行っていますが、代表者の来所時にも、疑問、問題点などについて意見交換をしている。	職員は、勤務や休暇希望などを管理者に伝えており、その他、車いす用の体重計の購入やソファー入れ替えは管理者及び代表者に伝え、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って働ける様職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修を受けさせ、ケアの力量の向上をさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会組織ネットワークの中で、相互訪問や勉強会に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご本人様やご家族から不安・要望などについて十分に話し合い、サービスやケアが出来る様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのような生活を希望されているか問題点や要望などを話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の不安や要望に今、何が必要なのか、相談しながら見極め、サービスやケアの内容に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみなど可能な利用者様には、手伝って頂き、共に日々を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員がご本人様のケアを全て行うのではなく、機会があれば、食事介助、病院の受診対応など意図的にご家族に行って頂くことで、ご家族にも共同の支援者であることを感じて頂くように、している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	限られた利用者様ではあるがご家族と、外出・外食、又は、ご自宅に、一時お帰りになったりしている。	馴染みのひとは、家族・親戚と友人、馴染みの場合は、昔行ったことのある場所と考えて支援しており、家とお墓を守ることを大切にしている利用者には、介護タクシーを利用して職員とともに墓参りに行く機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	高齢で介護度の高い利用者が多いため利用者同士の活発なコミュニケーションは、多くはないが、利用者同士が、助け合う場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、転居先へ訪問し様子を伺いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様にアンケート調査を行い意向や希望を聞き支援に活かしている。意思表示が難しい方には御家族に聞いたり、カンファレンスで話し合い把握に努めている。	入居時に、今困っていること・行ってみたいところ等の「利用者様の希望やご意見11項目」を、利用者から聞き取りを行い、家族からも希望を聞き、その後のケアの参考にしている。また、直接会話することに努め、入浴時等に話されたことを職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を基に、御本人様の生活史や生活習慣を聞き、経過に応じたサービスを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活内容が分かるチェック表があり、水分、食事摂取量、排尿・便、内服などの現状把握が出来る様になっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時に、カンファレンスを行いケアプランを作成し、状況に応じたモニタリングをし、変化があった時には見直しを行っている。	毎月3名の利用者のケア会議を行って、情報交換をしている。毎日のケアのなかで、1名の方の情報を3人の職員に書いてもらい、アセスメントにつなげている。アセスメントをカンファレンスに提出し、作成したプランを回覧して、必要があれば、手直ししたものを正式なプランとして提示している。	日々のケア記録が、ケアプランに基づいた記録となるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り、ノート等を利用し、職員全員で情報を共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意見を踏まえ職員間で話し合い、支援の創意工夫に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	将棋のボランティアさんが、週一回水曜日に訪問され、利用者様と将棋をされたり、一緒に、お茶など飲みながら、手ほどきをされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	幾つかの病院、クリニックと提携しており、その時の病状に対応した医療が受けられる様に、支援している。	事業所のかかりつけ医である病院の医師に、月に2回定期的に往診を受けている。急変時は入院対応している。それ以外の科への受診は、基本的に家族に対応していただいている。突発的な身体的な変化には、近隣の医師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回の往診時に、医師の指示を受けています。変化があった場合、速やかに対応する様に心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中においては、担当看護師やケースワーカーなどと連絡を取り出向いて情報交換や相談をし、利用者様が安心して治療を受けられる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に関して、家族と話し合いを行い、意志確認書を作成し署名して頂いている。	入居時に、「看取りについて」という意思確認書を用いて、看取り体制のないことを説明している。基本的に、食事が摂れるまでとしている。事業所でできることは、皆で相談してケアしており、「今食べているご飯が、最後のごはんかもしれない。」という姿勢で、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを提示し、講習や研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や、消防署指導での消火訓練を定期的に行っている。	年に2回(消防署対応・自主訓練)、行っている。非常口近くの駐車スペースを1台空けること・夜間は、真っ先に窓を開けて近所に大声で火災であることを伝えることを、共通認識している。備蓄は、ポリタンクに水を、月に2回入れ替えて確保している。	近隣の方への災害時の協力理解への働きかけや体制づくりを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、一人ひとりに合った対応や言葉掛けを心掛けている。	トイレ誘導は、あからさまではなく「ちょっとこっちに行きませんか」と声かけしている。ポータブルトイレを夜間使用している利用者の部屋には呼び鈴があり、呼び鈴で職員が対応できるようにしている。居室のガラスドアの模様の1ヶ所から、扉を開けることなく安否確認ができるようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援、介助させて頂く際には、ご本人様に確認し、又、言葉が出ない方へは表情等を注意深く見たり思いを探るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でTVを観る方、食堂でパズル本、新聞等を観る方など、自分の過ごしたい場所できつろげる様に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容はもちろんですが、訪問美容師によるカットを、2ヶ月ごとに依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりに摂取しやすい状態で、旬の食材を使った食事を職員と一緒に頂いている。又、行事食などもある。	専門の職員が、全ての料理を手作りしており、食事には、菜園の野菜や果物が添えられている。職員は利用者の食事介助をしながら、一緒に食事をして、利用者と同じ味を感じるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、刻み食、ミキサー食おかゆなど利用者一人ひとりに合わせた形状で摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の起床時と毎食後に口腔ケアをして頂いています。義歯は洗浄剤にて消毒し、お返ししています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様、一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握し、その状態に合わせて排泄誘導介助をしている。	排泄のチェックリストがあり、個々の排泄パターンがわかるようになっており、職員はそれをみて誘導時間や排泄ケアを工夫して排便につなげている。おむつ着用の方がリハビリパンツとなり、自分で衣類の上げ下げができるようになった事例もあり、自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ヨーグルト・牛乳を利用者様に摂取して頂くことで便秘予防対策を行っている。なるべく、整腸剤等を使わず、自然排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、基本、午前中としているが、その日の利用者様の状態や希望に合わせて随時行っている。(夜間は除く)	入浴は午前中に、輪番制の木札をかけ一人ずつ入浴を行っており、拒否がある方には、時間をおいての声かけや、職員を代える・誘導の声かけを変えるなどして対応している。また、入浴剤や菜園のゆずをたのしんだり、会話を引き出したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも休息が取れる様にしている。気持ち良く眠れるように環境にも気配りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の内容について主治医に相談や確認をし、症状の変化などに注意を払い、内服できる様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、テーブル拭きなど、手伝っていただいたり、又、散歩レクリエーションで、体操、ボール投げカラオケで歌を唄ったりして気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度、花見ドライブや果物狩りに出掛けたり、時には、ご家族と出かけています。	毎月、ドライブや花見・果物狩りを計画している。出かけた時の写真は、家族に郵送したり、ホームに掲示したりしており、利用者が写真を見ながら出かけた時の話をする機会となっている。歩行器を使い、近くの中学校まで散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお預かりしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、ご本人様から要望があれば対応します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に沿ったカレンダーを作り年中行事も取り入れています。	窓が大きく光が差し込み、外の風景が見られる開放的なホームとなっている。窓は10cmほど開けられるようになっており換気ができ、温度や採光の調整は職員が行っている。共通空間の壁には、イベント時の写真・外出時の引き延ばした写真があり、利用者を喜ばせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでTVを観たり、カラオケで歌を唄ったり、食堂でのパズル、将棋など、自由に出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様や家族に使い慣れた物を持って来て頂くようにお伝えしています。	それぞれ自宅から使い慣れたタンス・机・いすやテレビを持ち込み、自由に過ごしている。なかには、仏壇のある居室もあり、花が供えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂や、トイレなど分かりやすく大括字で表示している。家具などの配置も考え、利用者が移動しやすく、安全である様にしている。		